

港北区教育研究会

1 研究主題 「社会に開かれた教育課程の創造・実践～授業力の向上と研究交流～」

2 研究主題について

港北区小学校教育研究会では、これまで市教育研究会の研究主題・副主題を受け、各教科・領域等部会（ＡＢ研）において、児童一人ひとりの問題解決力の育成を目指した主題、児童の感性をより豊かに育てよりよい生き方を培おうとする主題などを設け研究に取り組んできた。また、各学校においても、それぞれの研究主題を軸に指導法の改善や指導技術の向上、授業力や組織力の向上に向け研鑽を積んできた。今年度は、コロナウイルス感染防止の対策を講じながら研究を進めていくことになる。この状況下だからこそ、「どのように学習活動を進めていくか」その情報共有が必要不可欠であると考え、継続して本研究主題を設定した。

3 研究方法

【連絡・情報交換・情報共有について】

- ・メーリングリストを活用し、アンケートを送信したり意見や質問を集約したりした。
- ・書面で連絡し合うことで、事前に準備をしてもらうことができ、研究会の時短にもつながった。

【開催方法の工夫】

- ・リモートで行い、会場に集合せずに研究会を開催。
- ・講演会は体育館など広い場所で、ソーシャルディスタンスを保って実施。
- ・感染リスクを避けるための人数制限。

【研究会の工夫】

- ・近隣校で材の共有など連携を図れるように取り組んだ。
- ・3密を避けるための学習の進め方を共有したり、市研からの情報を区研で共有したりすることで、区全体でどのように進めていくかという方針を明確にした。
- ・一斉授業研究会はできなかったが、授業のことだけでなく、次のようなテーマで情報交換を行う時間をとった。「全体計画作成について」「評価について」「振り返りカードについて」「効果的な掲示物について」など
- ・感染防止を考慮しながらも、講師の先生に来ていただき、研修内容が充実した。
- ・ICT研修にも取り組んだ。（ipadの編集作業の仕方について研修）
- ・研究会によっては、年度当初から開催回数を減らして計画を立てた。

【校内研究の方法について】

- ・ブロックや学年ごとなど、小さな単位で見合うようにした。
- ・授業研究以外の研修会を計画した。（評価規準についての共通理解など。）
- ・校内研も遠隔で行ったり部会に分けて分散して行ったりした。

4 年間活動(事業)報告

(1) 港北区小学校教育研究会総会

8月25日(火)、3月16日(火) 高田東小学校ホストによるリモート開催

(2) 各研究部活動・行事等

①区児童音楽会（12月～2月）

中学校ブロックを基本にして7ブロックを構成し、各校で録画、編集したDVDをブロック内で鑑賞し合う。（鑑賞したDVDは、元の学校に返却する。）

②区個別支援学級合同学習発表会（2月）

中学校ブロックを基本にして7ブロックを構成し、各校で録画、編集したDVDをブロック内で鑑賞し合う。（鑑賞したDVDは、元の学校に返却する。）

※一斉授業研の授業校は、令和3年度にそのままスライドする。

5 研究の成果と課題

「学びを止めない」という共通認識のもと、リモート会議や人数制限をしての研修会など、感染防止対策をして研究を進めてきている。これらは今後も継続できる工夫であり、こまめな連絡やメールの活用は、コロナ禍でなくとも有効利用ができると実感した。

しかしながら、この状況になって改めて、授業研究会の大切さ、子どもの姿を共有することの大切さを実感したところである。感染防止対策を継続しながらも、実践提案、講師を招いての講演会、見学会なども含めて多様な研修・研究機会を創造していきたい。

また、今年度はほとんどが中止となった各種行事においても、今年度一年間の経験をふまえて、「実現するには…」という視点で検討を進めていきたい。

教育活動を通して、豊かな体験活動や言語活動の充実をはかり、どのように主体的・対話的で深い学びを推進するのかということ意識しながら、今後も「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて研究研修に取り組んでいきたい。

【港北区 各研究部や各校からの声】

- ・コロナ禍でなくても、内容に応じてリモートでの会議を当たり前を活用していく。
- ・教職員の交通機関を利用しての移動や集合は、感染リスクを考えてしまう。
- ・専門家の方からの情報共有する機会は、設定していきたい。
- ・初任者や輕輕の浅い教員のフォローを考えていきたい。
- ・行事の推進について、先の見通しが立たない。できる工夫を考えたい。
- ・「豊かにかかわりあい」を実現できるように、各校の工夫した取組をさらに共有していく。
- ・学年で見合う映像で見合うなど、今年度の工夫を生かし新しい研究の形を広げていく。
- ・GIGAスクール構想の取組やアイデアを区内で情報交換していく。
- ・思考ツールを活用するなど、教職員の意識や意欲が高まる方法や工夫をしていきたい。